

平成25年度施策評価表

作成年月 平成26年8月

分野名(章)	安全・安心で快適に暮らせるまちづくり	分野(章)番号	4
政策名(項)	環境に配慮したまちづくりの推進	政策(項)番号	VIII
施策名(目)	ごみの減量化と資源リサイクルの推進	施策(目)番号	②
担当課	町民税務課	担当課長	引地 敏之

1. 施策の基本方針

施策目的	・環境に配慮したまちづくりを目指すため、町民の多くがゴミの減量とリサイクルを意識した行動を取れるようにすることを目的とする。
------	--

2. 施策の現状分析

施策の概況	施策に対するニーズ等(具体的事項)	施策を取り巻く環境(社会環境、国・県の動向等)							
	<p>・ごみ分別やリサイクルに対する住民の関心が高まってきており、ごみ分別の徹底と環境問題に対する理解を深めるために出前講座を数多く開催していくことが必要となっている。</p> <p>・月あたりの資源ごみの収集回数を増やしてほしいとの要望がある。</p>	<p>・大量生産・大量消費・大量廃棄など資源多消費型の社会構造や生活様式のため、環境への負荷が増大し、地球温暖化や原発事故等の影響により、経済社会構造や生活様式のあり方まで改めて問われている。</p> <p>・国では、循環型社会基本法や廃棄物処理法、資源有効利用促進法、各種リサイクル法などの法整備をすすめ、循環型社会実現のための各種施策を推進している。</p> <p>・県では、宮城県廃棄物処理計画において、基本理念に循環型社会の構築を掲げ、すべての主体の連携と協力のもと、総合的及び体系的な施策展開を行うとともに、3Rの取り組みを進めている。</p>							

施策指標(成果指標)	指標の内容	達成度(上段:目標 下段:実績)							
		H23	H24	H25	H26	H27	H27目標	備考(他団体状況含む)	
主要	丸森町の一人一日当たりのごみ排出量	目標			635g/日	635g/日	630g/日		H25仙南地域少ない順から3番目(七ヶ宿・川崎・丸森)1人1日当たり排出量675g/日
		実績	690g/日	689g/日	675g/日			630g/日	
		達成率			106%				
参考①	リサイクル率	目標			23.00%	23.00%	25.00%		資源ごみ量/ごみ総量 国の調査で H25~23.82%
		実績	22.56%	23.73%	23.82%			25%	
		達成率			104%				
参考②	町域から排出される一般廃棄物の量	目標			3,700t	3,700t	3,650t		3,650t
		実績	3,886t	3,201t	3,185t				
		達成率			86%				
参考③		目標							
		実績							
		達成率							
参考④		目標							
		実績							
		達成率							

3. コストの推移(行政資源投入の状況)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	平成27年度
		(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(当初予算)	(見込み)
事業費		31,484千円	31,827千円	38,428千円	32,691千円	38,428千円	38,428千円
財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	県支出金	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	(うち過疎債)	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	その他特定財源	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	一般財源	31,484千円	31,827千円	38,428千円	32,691千円	38,428千円	38,428千円
従事者数	正職員	1.54人/年	0.27人/年	0.27人/年	0.27人/年	0.37人/年	0.37人/年
	臨時職員	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年
人件費	正職員	10,369千円	1,841千円	1,833千円	1,833千円	2,512千円	2,512千円
	臨時職員	千円	千円	千円	千円	千円	千円
退職給与引当金		1,335千円	252千円	245千円	245千円	336千円	336千円
トータルコスト		43,188千円	33,920千円	40,506千円	34,769千円	41,276千円	41,276千円

4. 施策の評価

有効性の評価	施策成果の達成度	b	a達成度は非常に高い b達成度はやや高い c達成度はやや低い d達成度は低い
	[説明]		・町域から排出される一般廃棄物の量は、前年実績を下回っている。リサイクル率については前年の実績とほぼ同数で目標数値を達成している。一人あたりのごみの排出量は前年度実績を下回っている。全体的に震災の影響もなくなり、今後は施策の成果の有無を適切に判断できる状況になってきている。
	施策成果向上の可能性	b	a可能性は十分ある bある程度可能である c可能性はあまりない d可能性はない
	[説明]		・資源物の収集回数やストックヤードのスペース・紙以外の資源物の受け入れ・エコバッグの取り組み・他市町の先進的取り組みを検討・吸収することにより、リサイクル率の向上の可能性など成果の向上が期待できる。 ・ごみ減量化のための手段の1つとして生ごみ処理機やエコバッグに対する意識がまだまだ低く、今後その利用の啓発を強化していくことでごみ減量の成果が期待できる。
	貢献度	a	a貢献度は非常に高い b貢献度はやや高い c貢献度はやや低い d貢献度は低い
[説明]		・分別収集の実施及びストックヤード開設による休日の紙資源の収集、出前講座によるごみをはじめとする環境問題の住民への啓発など環境や住民に直接働きかける本施策は、ごみ発生抑制やリサイクル資源の増加など改善していく状況が目に見える効果もありその影響は大きく、環境に配慮したまちづくりの推進への貢献度は非常に高い。	

5. 施策の課題

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル率は前年実績とほぼ同数であるが目標数値を達成している。今後は更なる向上を図るため目標数値の設定を上げて、リサイクルの促進と可燃ごみの減量化を目指して、3Rを広報誌、HP、出前講座等で住民に対し積極的にPR推進することが必要である。 ・資源物の収集回数やストックヤードのスペース増設、紙以外の資源物の受け入れの検討が必要である。 ・生ごみ処理機の利用啓発及びそれに関わる補助制度のPRを広報誌、HP、出前講座で積極的な周知を図る必要がある。 ・リユースの分野に関わる事業が取り組まれていない。 ・今後、更にごみ袋の有料化や野焼き防止について徹底した啓発活動を実施する必要がある。 ・各地区のリサイクル推進指導員と連携して、町民がリサイクルの重要性を常に意識するように町民に対して情報を提供する必要がある。 ・グリーン製品購入の検討が必要である。
----	---

6. 施策の方向性

総合評価	この施策の事業費を「維持」して取り組んでいく	次年度以降方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化と資源のリサイクル推進のため、住民に対し出前講座等による啓発・PRを強化する。 ・資源物の収集回数やストックヤードのスペース・増設・紙以外の資源物の受け入れの検討を進める。 ・ごみを減量する取組と資源にできるものを分別するという行為は、町民の生活環境、そして大きな意味での地球環境を守る上で欠かせない作業なので継続的に実施する。
------	------------------------	---------	---

【総合評価】 拡大、維持、縮小

なお、「総合評価」については、H26の事業費とH27の事業費を比較したのみの評価となりますので、「次年度以降方針」の内容とは異なる場合があります。
必ずしもこの事業費の比較の評価が事業内容に繋がるとは限りません。